

< 学会アンケート結果 >

クリニカルパスの普及・体制の現状と課題 —第19回(2019年度)アンケート結果から—

一般社団法人日本クリニカルパス学会

I. はじめに

日本クリニカルパス学会では設立2年後の2001年より、クリニカルパス(以下、パス)の作成と体制の現状をリアルタイムに把握し、現場が求めている情報や支援を明らかにすることを目的に、パスの実態調査を毎年行っている。第19回となる今回の調査では、例年に引き続き、パスの利用状況・体制の変遷や電子カルテへの応用、パス運用とその課題について調査を実施した。今年度の特定期間調査はパスに関するインディケーター、パスの専任または専従者、パス運用、医療情報、医師・看護師などに対するパス教育研修について調査した。

II. 調査方法

1. 対象

- 1) 200床以上の全国の一般病院(一部例外を含む、法人会員施設を除く) 885施設
- 2) 日本クリニカルパス学会法人会員の病院 438施設

3) 教育セミナー参加施設 61施設

1～3)の計1,384施設から送付先のエラーや閉院などで返送分32施設を除いた1,352施設を調査対象とした。

2. 方法

2019年8月に調査対象施設へ調査票を郵送配布し、未記名にて回収した(任意で施設名を記入可能)。

調査内容は、1)施設の概要、2)パスの現状(パスの使用状況、パス運用とその課題など)、3)パス大会・地域パス研究会の現状、4)パスに関するインディケーターについて、5)パス専任または専従者について、6)パス運用について、7)医療情報に関して、8)医師・看護師などに対するパス教育研修に関して、とした。

III. 結果

1. 回答病院の概要

調査対象である1,352施設中598施設から回答が得られ、回収率は44.2%であった(2001～2008年の回

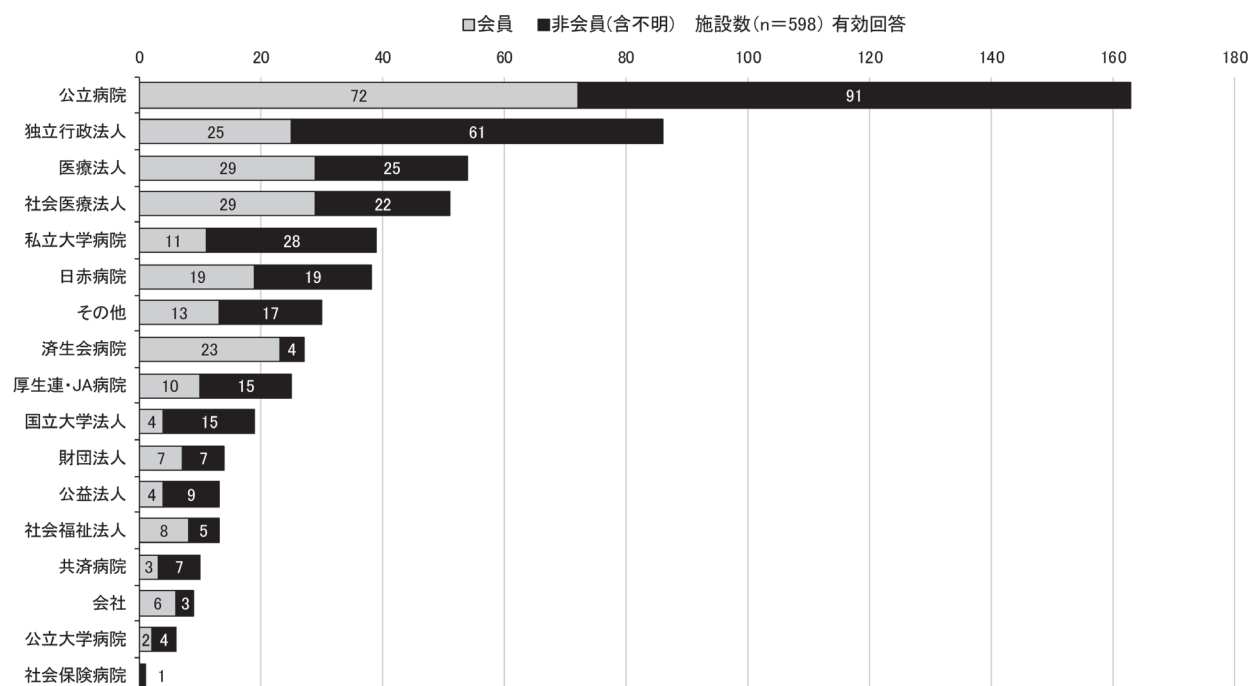


図1 経営主体分類

収率20.5～39.7%、2010年 39.5%、2011年 36.8%、2012年 35.2%、2013年 39.6%、2014年 40.9%、2015年 39.3%、2016年 38.8%、2017年 41.0%、2018年 45.7%)。

法人会員438施設中265施設から回答が得られ、法人会員の回収率は60.5%であった。非会員914施設中321施設から回答が得られ、非会員の回収率は35.1%であった。また会員種別不明の施設は12施設であった。

回答施設の経営主体(n=598)は、公立病院が最も多く163施設(27.3%)、次いで独立行政法人が86施設(14.4%)であった(図1)。また施設機能分類(n=598)は、地域医療支援病院が最も多く有効回答の44.5%で、次

いで一般病院が41.0%、特定機能病院が9.9%、私立大学病院が2.5%であった(図2)。看護体制(n=589)は7対1看護が最も多く有効回答の84.7%、次いで10対1看護が14.3%であった(図3)。

診療実績は、許可病床数300床以上400床未満の施設が最も多く(図4)、病床利用割合が80%以上90%未満の施設が40.4%と最も多かった(図5)。一般病床の平均在院日数(有効回答n=585)は11～13日が最も多く196施設(33.5%)であった(図6)。また設置病床は、急性期575施設、地域包括ケア病棟199施設、回復期リハ116施設、慢性期55施設、その他84であった(図7)。

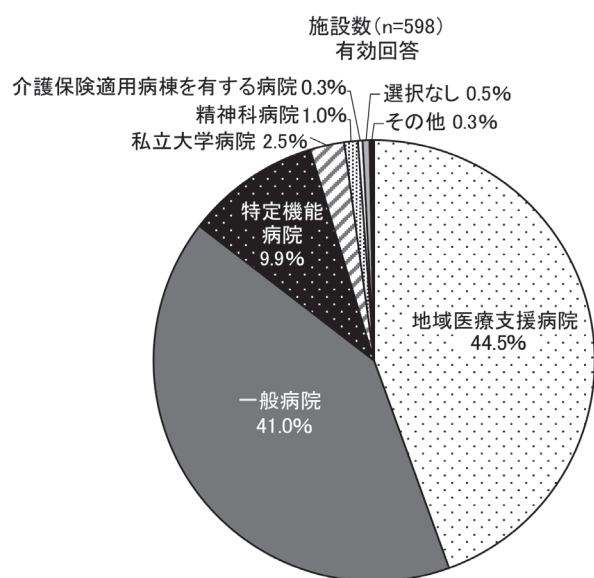


図2 施設機能分類図

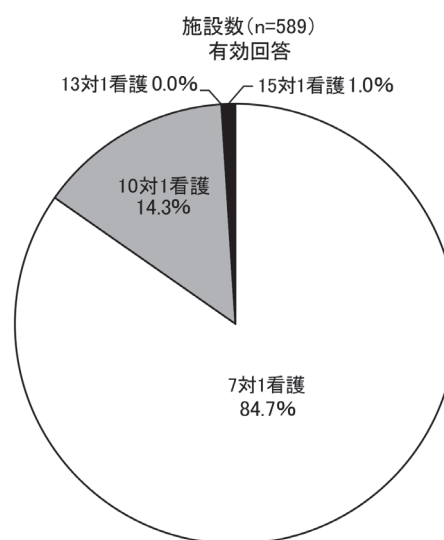


図3 看護体制

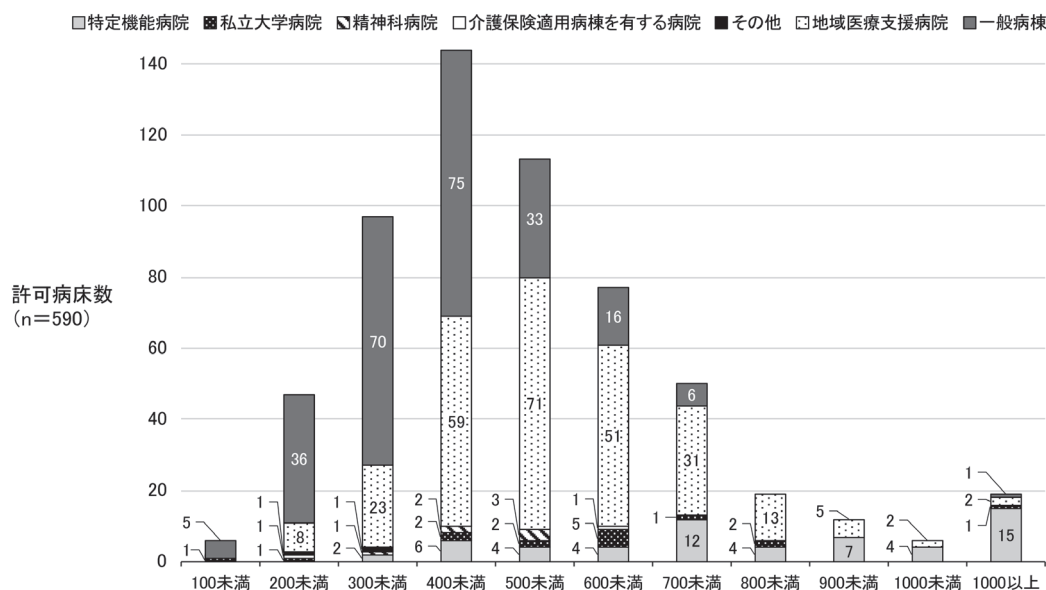


図4 許可病床数と施設機能分類の関係

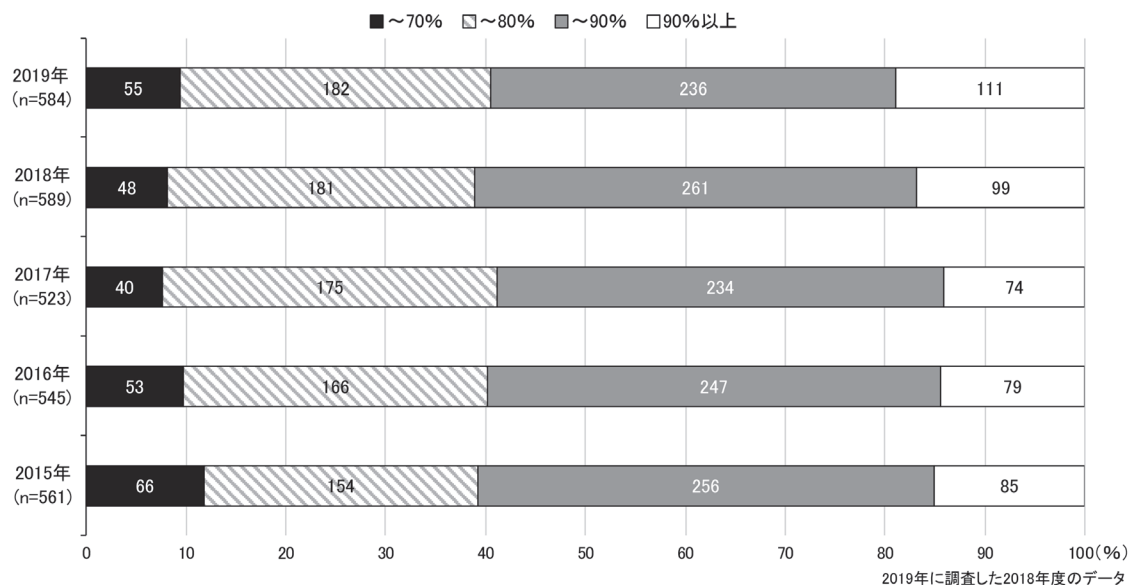


図5 一般病棟における病院利用割合の年時推移(施設数)

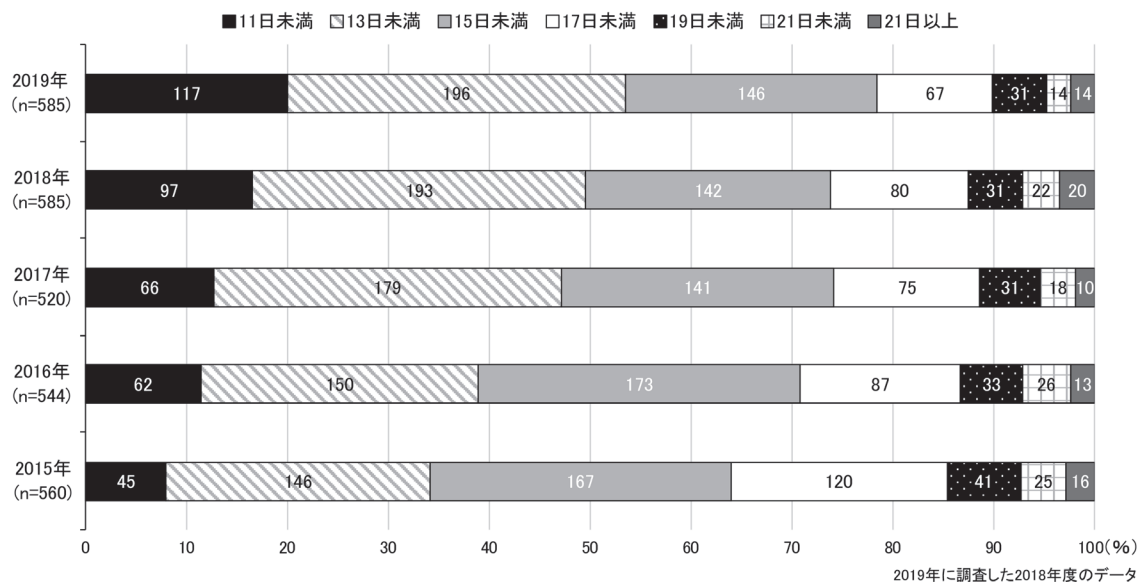


図6 一般病床における平均在院日数の年次推移(施設数)

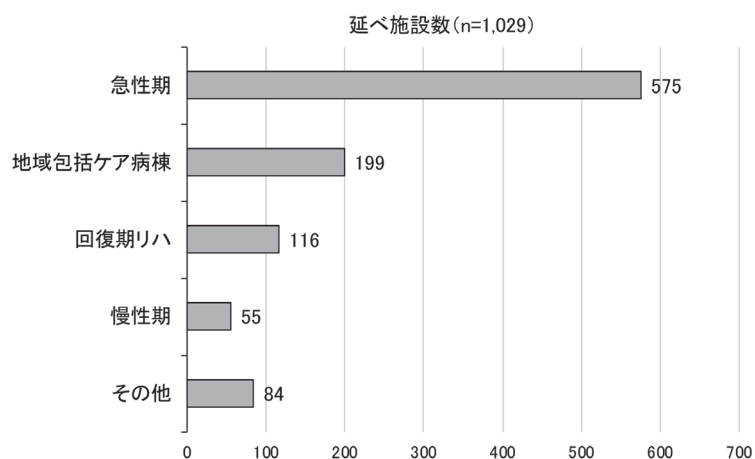


図7 設置病床

＜地域包括ケア病棟の設置状況＞

地域包括ケア病棟を既に設置しているとした施設は198施設(33.9%)であり、1年以内に設置する予定と回答した施設は35施設(6.0%)であった。今年度調査で、設置予定なしと回答したのは348施設(59.6%)と6割弱の施設で地域包括ケア病棟は設置されていなかった。

昨年度と比較すると地域包括ケア病棟を既に設置している病棟が1.9ポイント減少、設置予定なしと回答した病棟が3.2ポイント増加した(図8)。

電子カルテおよびオーダリングシステムの状況として、電子カルテのみ導入は409施設(69.0%)、オーダリングシステムのみ導入は25施設(4.2%)、電子カルテ・オーダリングシステム共に導入は154施設(26.0%)であり、既に

99%の施設が何らかの形で電子化されていた(図9)。

2. クリニカルパスの現状

1) パスの使用状況

全退院患者数のうち一種でもパスを使用した患者数の割合を「パス使用割合」と定義した場合、アンケート回答施設(n=554)のパス使用割合は40%以上～50%未満の施設が最も多かった(図10)。

患者用・医療者用両方が揃ったパスの種類数(n=575)に関しては、100種類以上の施設が最も多く284施設(49.4%)、次いで25種類未満の施設が95施設(16.5%)であった(図11)。パス学会会員種別とパスの種類の関係としては、100種以上の施設284施設中、57.4%が会員施設で占めた(図12)。

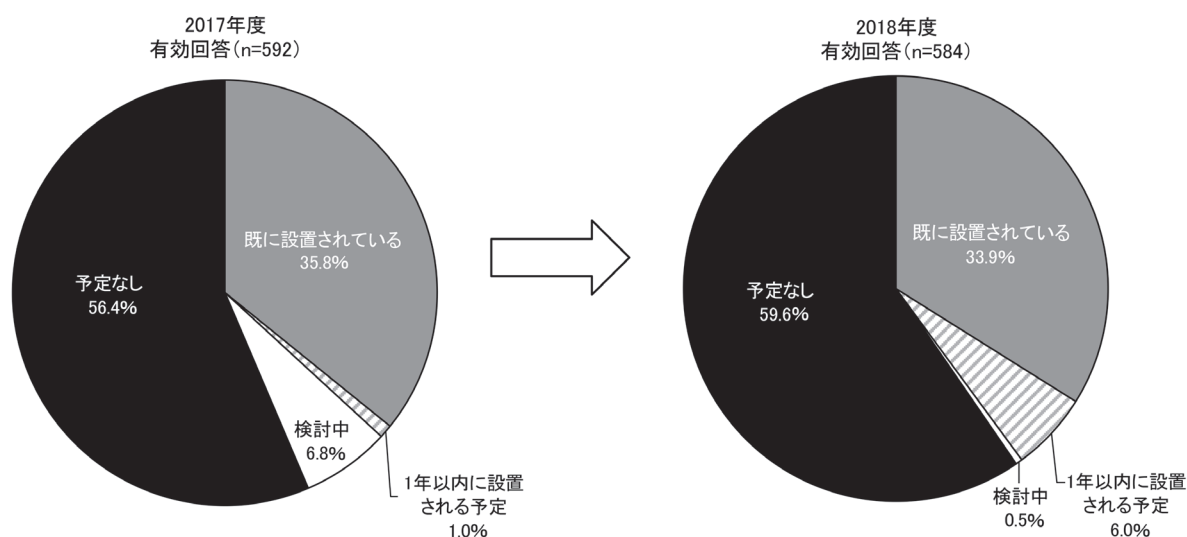


図8 地域包括ケア病棟の設置状況

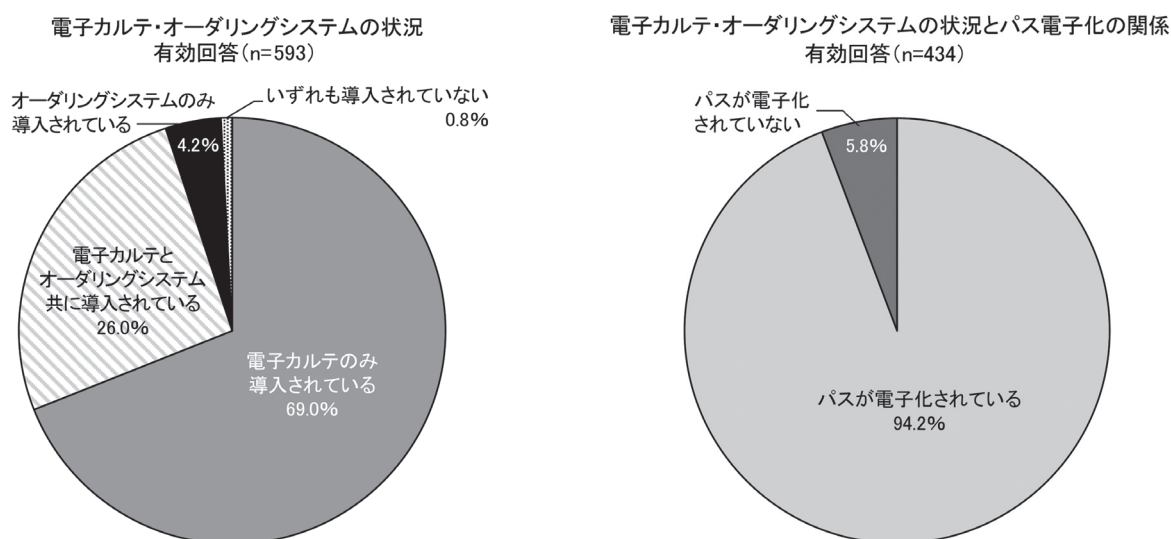


図9 電子カルテ・オーダリングシステム

2) パス運用とその課題

施設における診療科の設置(標榜)の有無、またパス導入の有無ならびにパスの活用度の関係として、内科系診療科においては循環器内科が最も標榜されており(517施設)、次いで消化器内科(503施設)、皮膚科(464施設)の順に高かった(図13)。

外科系診療科においては整形外科が最も標榜されており(556施設)、次いで泌尿器科(516施設)、眼科(479施設)、脳神経外科(467施設)の順に高かった。パス導入施設は整形外科(503施設)に次いで、泌尿器科(468施設)、眼科(424施設)の順に高かった(図14)。

診療科設置(標榜)施設に占めるパス導入施設の割合は、産婦人科(91.9%)、泌尿器科(90.7%)、整形外科(90.5%)、消化器外科(90.0%)の順に高く、パス積極活用施設の割合は、産婦人科(75.0%)、眼科(74.5%)、泌尿器科(64.1%)、乳腺外科(62.8%)の順に高かった(図15)。

パスを導入して達成された項目について、上位3項目

について回答を得た結果、述べ1,480件の回答が得られ、医療ケアの標準化(428件)と業務改善(293件)が多かった(図16)。パスを運用する際に困っている項目を複数選択にて回答を得た結果、1,233件の回答が得られ、バリエーションの集計・分析(396件)、バリエーション収集(282件)が多かった(図17)。

3. パス大会・地域パス研究会の現状

院内パス大会を開催している施設は、231施設(42.5%)であり(図18)、実施施設(n=234)のうち開催回数年1回の施設が153施設(65.4%)と過半数を占めた(図19)。

パス大会のテーマについては、毎回テーマを決定している施設が149施設(58.4%)と過半数を占めた(図20)。

地域合同パス研究会を開催する施設は227施設(41.7%)であり(図21)、年間開催回数(n=212)は4回が62施設(29.2%)と最も多かった(図22)。

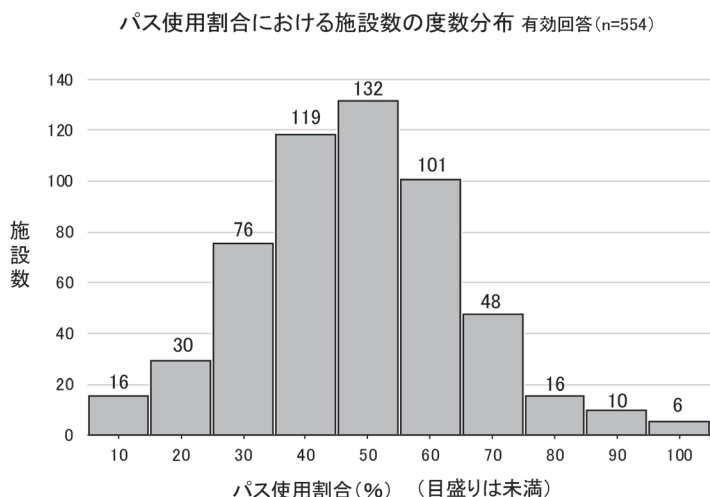
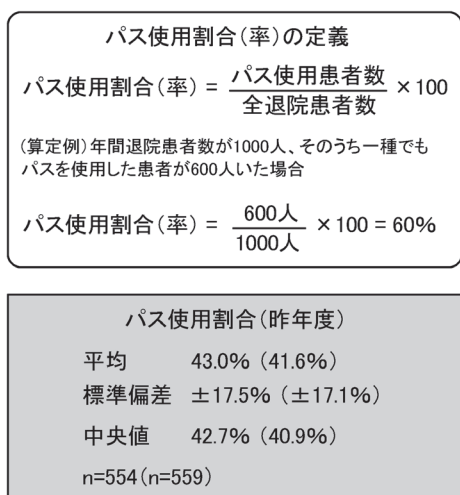


図10 パス使用割合

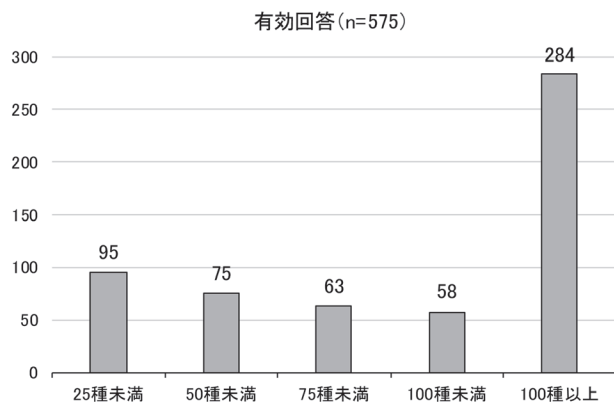


図11 患者用・医療者用両方の揃ったパスの種類

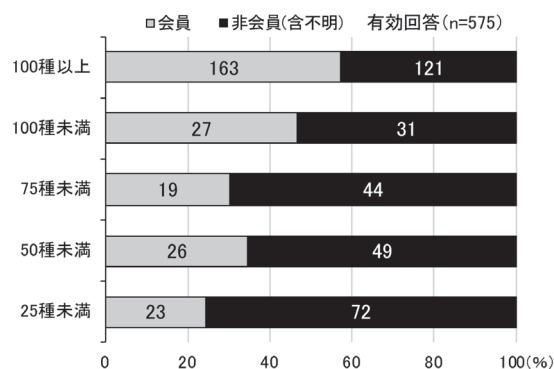


図12 会員種別とパスの種類の関係

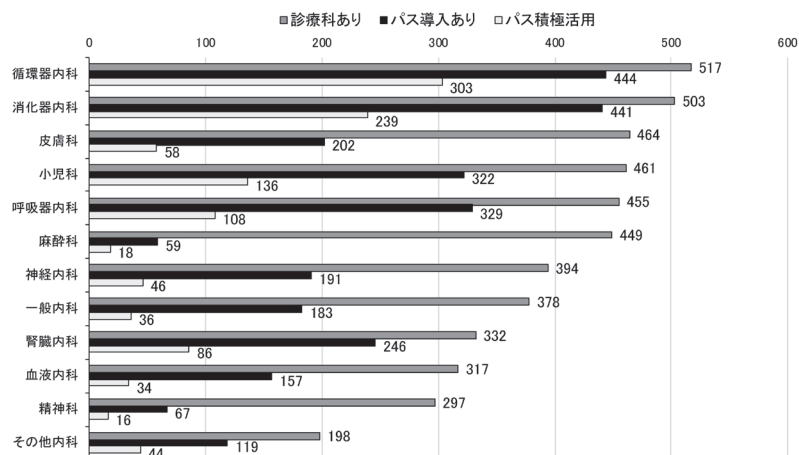


図 13 内科系診療科におけるバス導入・活用状況

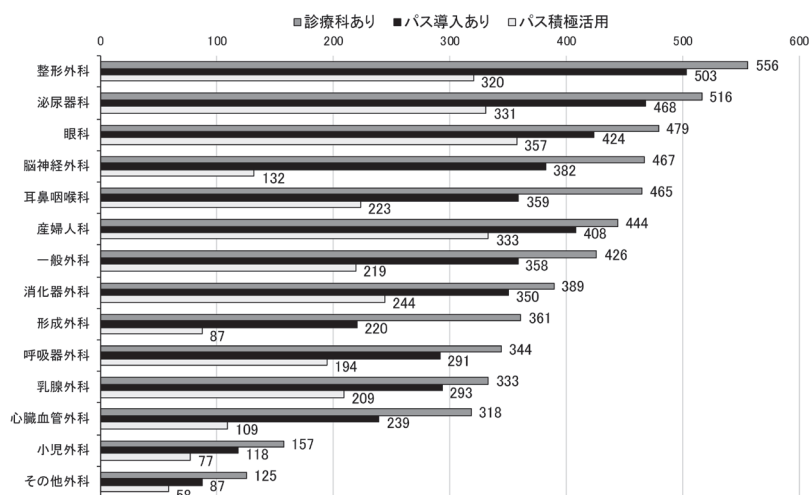


図 14 外科系診療科におけるバス導入・活用状況

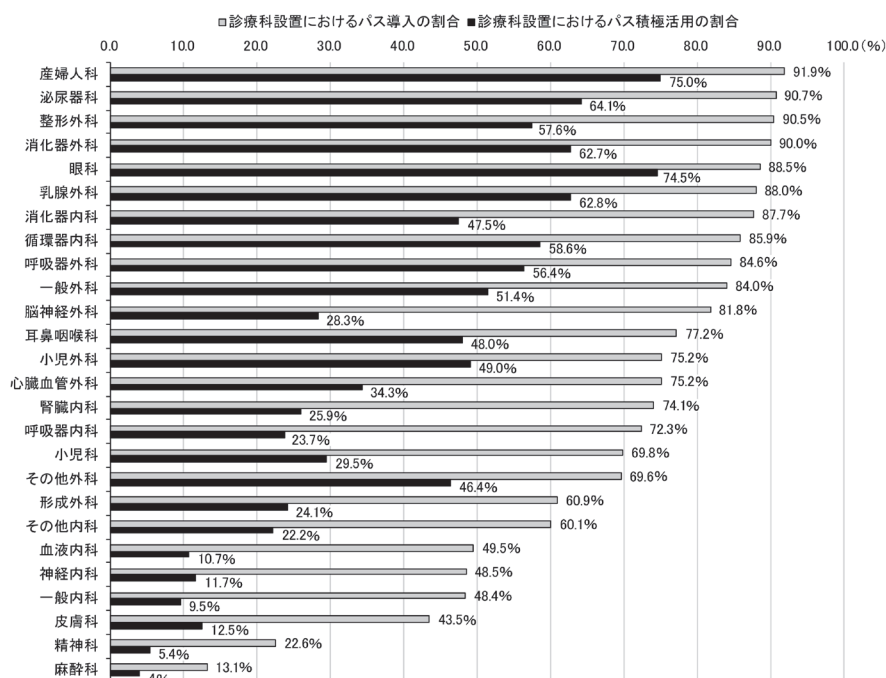


図 15 診療科設置施設に占めるバス導入および積極活用施設数の割合

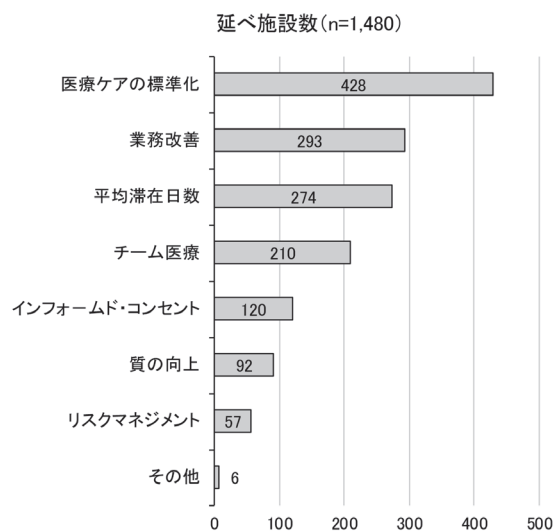


図16 パスを導入して達成した上位3項目

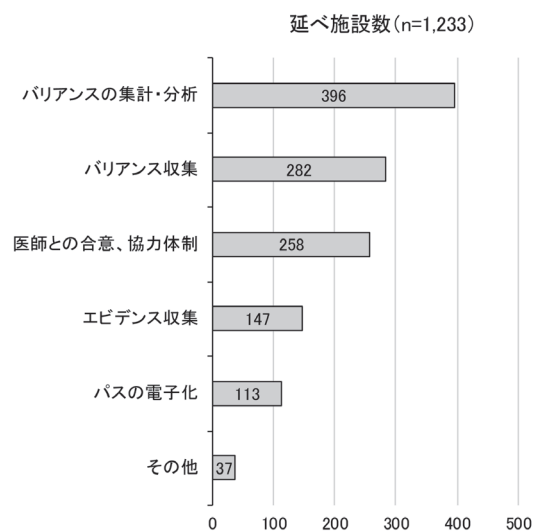


図17 パスの運用で困っている項目

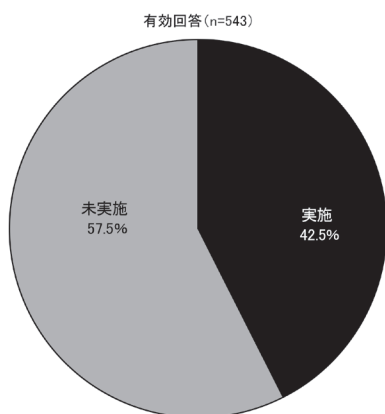


図18 パス大会実施の有無

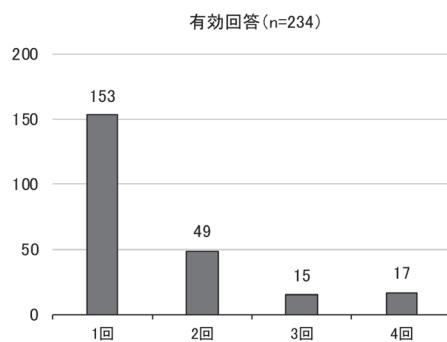


図19 パス大会の年間開催回数の度数分布 (パス大会実施施設)

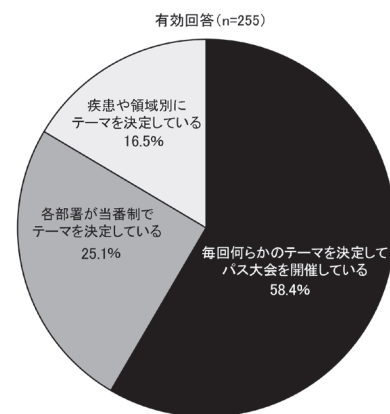


図20 パス大会のテーマに関して (パス大会実施施設)

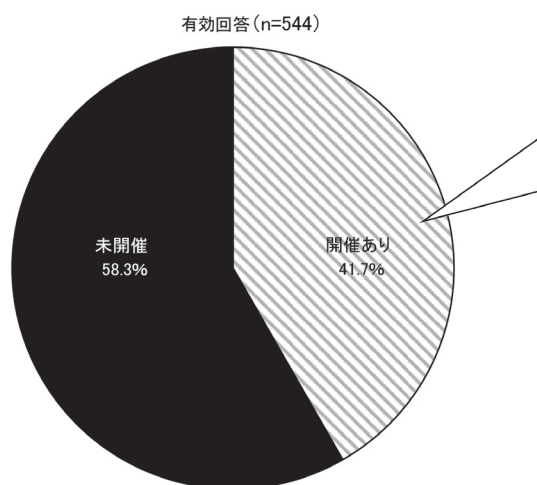


図21 合同パス研究会実施の有無

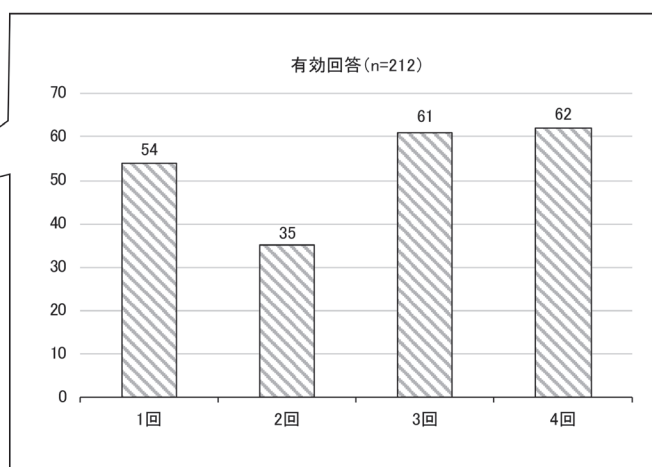


図22 地域合同パス研究会の年間開催回数の度数分布

4. 地域連携パスの使用状況

地域連携パスを活用している施設は、521施設中389施設(74.7%)であった(図23)。また使用される地域連携パスのうち、脳梗塞・脳出血パスが306施設と最も多く用いられており、次いで281施設で大腿骨頸部骨折連携パス、175施設でがん連携パスが多かった(図24)。

5. パスに関するインディケーターについて

パスに関するインディケーターを1年間に使用したパスの延べ件数(件・年)をパス使用患者数(人・年)で除した数と定義した場合、アンケート有効回答数(n=426)

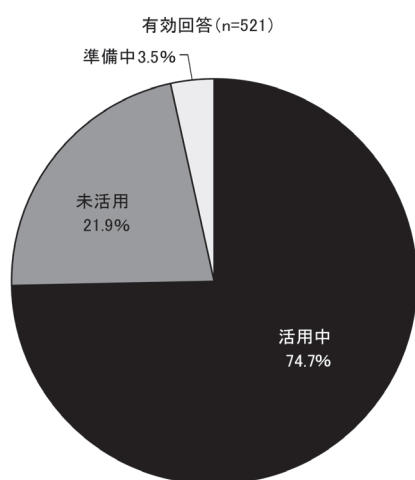


図23 地域連携パスの作成活用の有無

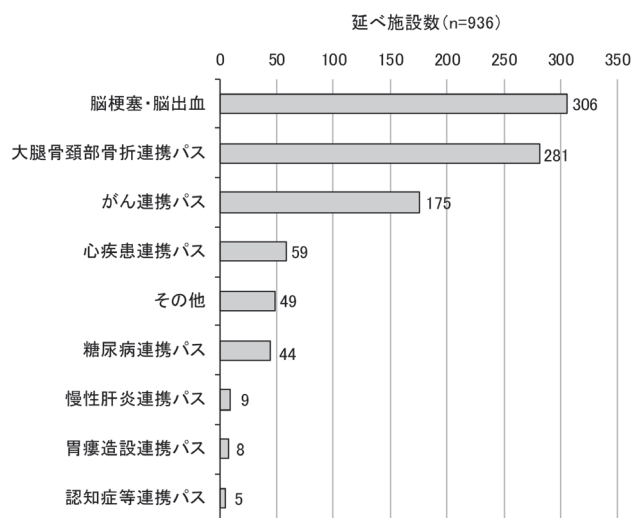


図24 地域連携パスの種類

パスに関するインディケーターの定義

$$\frac{1年間に使用したパスの延べ件数(件・年)}{パスを使用した患者数(人・年)}$$
(算定例)施設で1年間に、延べ3000件のパスを使用し、パスを適用した患者が2000人だった場合

$$\times = \frac{3000(件)}{2000(人)} = 1.5(件/人)$$

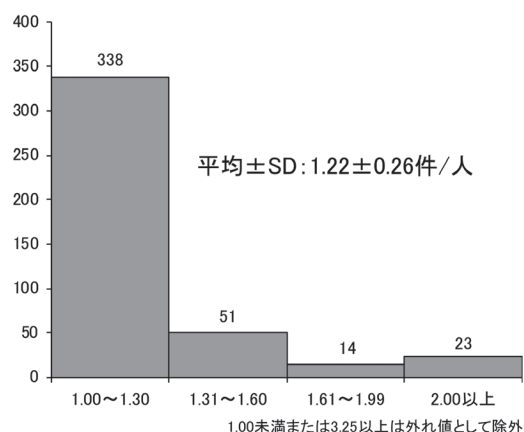


図25 パスに関するインディケーターについて

パス専任者、パス専従者の定義

- ・パス専任者:業務の5割パスに関わっている
- ・パス専従者:業務の8割パスに関わっている

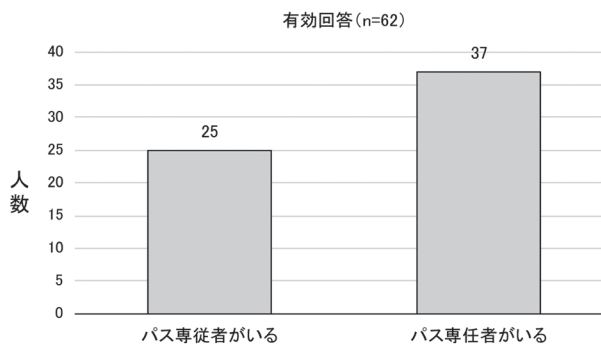


図26 パス専従者・専任者

のパス使用延べ件数は1.00~1.30(件/人)の施設が最も多かった(図25)。

6. パス専任または専従者について

昨年度調査から新たに追加された項目にパス専任または専従者についての項目がある。パスの専任者を就業時間の5割以上、パスの専従者を就業時間の8割以上をパス業務に従事しているものと定義した。アンケート有効回答数(n=598)のうち、専任を置いている施設数は37施設(6.2%)、専従を置いている施設は25施設(4.2%)となった(図26)。

7. パス運用について

電子カルテシステムにパスを登録する担当者は延べ施設数(n=684)のうち、現場のスタッフが43.3%(n=296)で最も多く、次いでパス委員会が36.7%(n=251)であった(図27)。

パス使用率の算出頻度は531施設中、毎月と回答した施設が最も多く65.2%(n=346)であった。

バリエーション抽出の集計頻度は497施設中、その他と回答した施設が最も多く48.3%(n=240)であった(図28)。

8. 医療情報に関して

電子カルテのベンダーについては515施設中、富士通と回答した施設が最も多く40.6%(n=209)であった。次いでNECと回答した施設が多く29.1%(n=150)であった(図29)。BOMの使用については527施設中、34.2%(n=180)が使用していると回答した(図30)。

ユニットパスの使用については503施設中、74.4%(n=374)が使用していないと回答した(図31)。

9. 医師・看護師などに対するパス教育研修に関して

昨年度調査から新たに追加された項目に医師・看護師などに対するパス教育研修に関しての項目がある。

現在施設内でパスの教育研修を実施している施設は

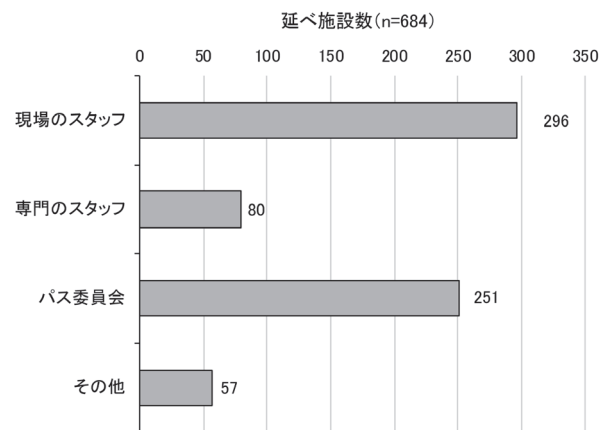


図27 電子カルテシステムのパス登録担当者

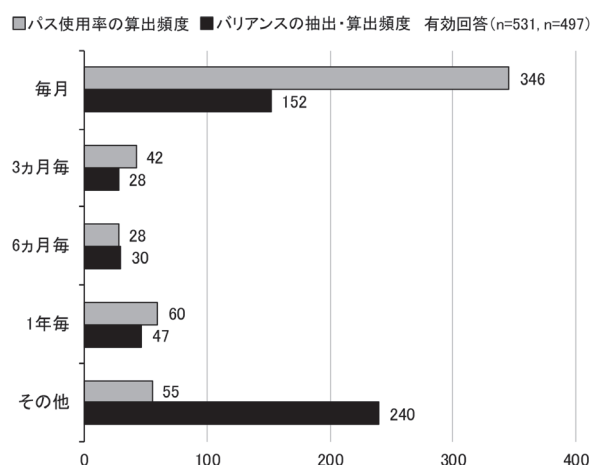


図28 パス使用率およびバリエーション抽出の算出頻度

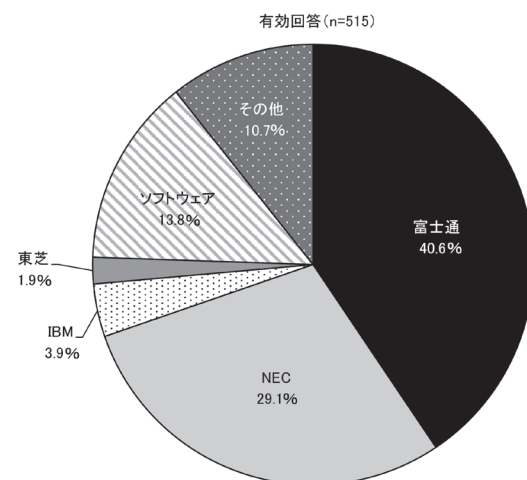


図29 電子カルテのベンダー

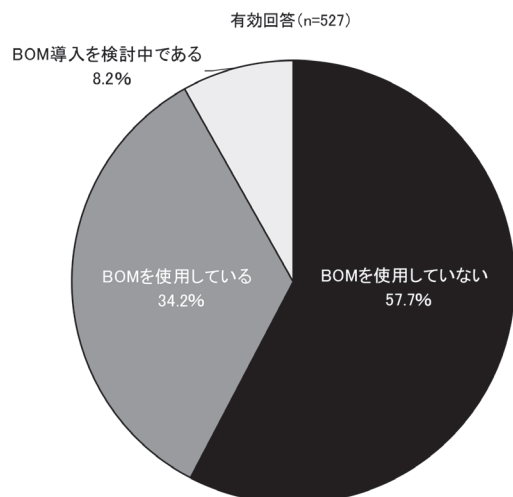


図30 BOMの使用について

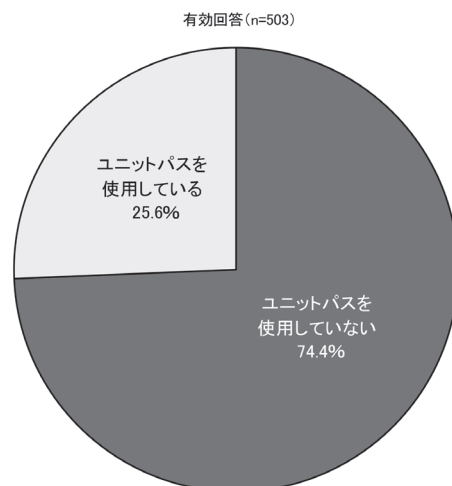


図31 ユニットパスの使用について

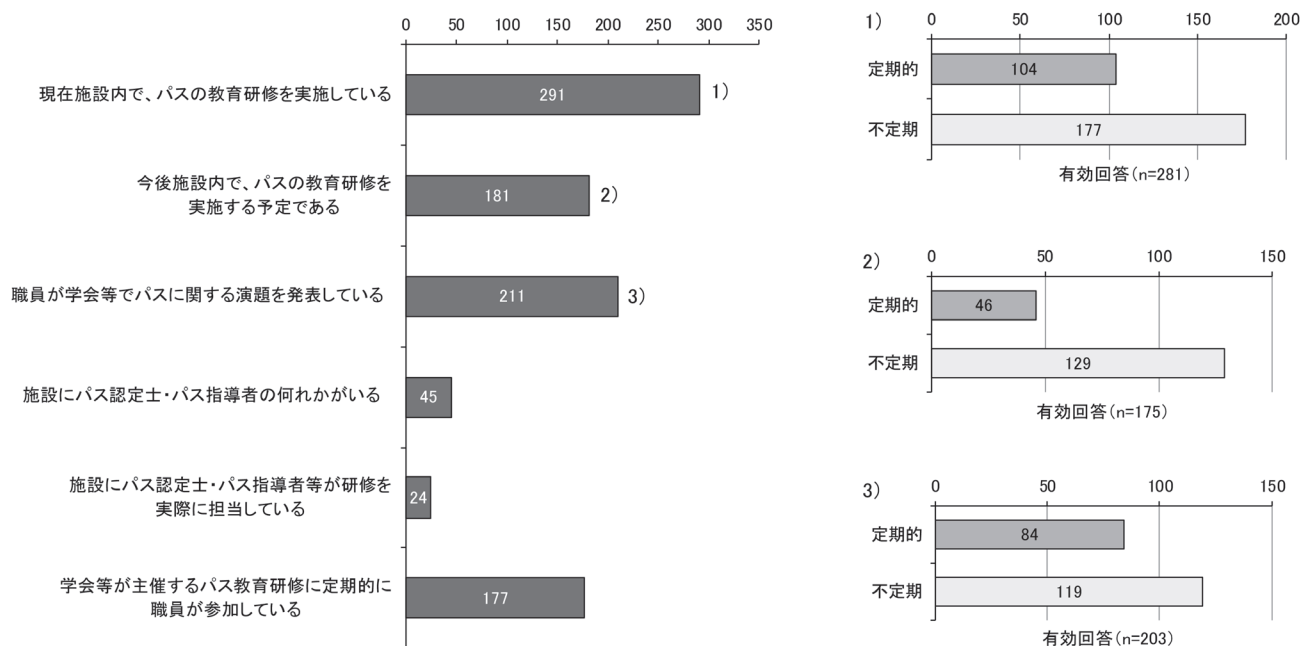


図32 医師・看護師などに対するパス教育研修に関して

291施設であり、うち定期的に行っている施設は37.0%であった(図32)。

IV. まとめ

1. パスの電子化の状況

電子カルテが導入されている施設では、約9割の施設でパスも電子化されていた。

2. 入院患者に対するパスの使用(適用)

入院患者に対するパス使用割合(率)は43.0%と昨年度より1.4ポイント増加した。

3. 標榜診療科毎のパス導入・活用の割合

パス導入割合の最も多い診療科、パスの積極活用割合の最も多い診療科は産婦人科でありそれぞれ92%と75%の施設で導入と積極活用されていた。

4. パス大会・地域合同パス研究会の実施状況

施設におけるパス大会の開催回数は年1回が最も多く、地域合同パス研究会は年4回の施設が最も多かった。

5. パスに関するインディケーターについて

パス使用延べ件数は1.00～1.30(件/人)の施設が最も多かった。

6. パス専任または専従者について

パスの専任者を置いている施設数は6.2%、専従者を置いている施設は4.2%であった。

7. パス運用について

電子カルテシステムにパスを登録する担当者は現場のスタッフが43.3%と最多であった。パス使用率の抽出頻度は毎月と回答した施設が65.2%で最多であった。バリエーション抽出の集計頻度はそのほか48.3%で最多であった。

8. 医療情報に関して

電子カルテのベンダーについては富士通と回答した施設が40.6%で最多であった。BOMの使用については34.2%が使用していると回答した。ユニットパスの使用については74.4%が使用していないと回答した。